

1 題材 広まる 黒まる絵本

2 目標

- 絵本の表現に関心をもち、心豊かに構想を練ったり表現を工夫したりしようとする。
(美術への関心・意欲・態度)
- 色彩や構図による画面の変化から物語のイメージを膨らませて、絵本の構想を練ることができる。
(発想や構想の能力)
- 主題をより強調するために、効果的な形や色彩等の表現を工夫することができる。(創造的な技能)
- 自他の作品を鑑賞し、表現の工夫を感じ取りながら造形的なよさを味わうことができる。(鑑賞の能力)

3 指導にあたって

本題材は、中学校学習指導要領のA表現(1)及び(3)にかかわる学習であり、単純な図形の黒丸からイメージを広げて絵本に表す活動を行う。子どもたちにとって絵本は常に傍にある存在であり、言葉をよく知らないうちから、絵を見て場面の変化や時間の流れを感じ、登場人物の気持ちを想像しながら、自分なりのイメージをする力を養ってきている。自分の絵本を制作する活動を通して、生徒は、感性を豊かに働かせて、自分なりの主題を生み出しながら表すことができると考える。

本題材に関する意識調査(平成27年 *月実施 1年*組 32人)

① 小さい頃、「絵本」をよく読みましたか?もしくは読んでもらいましたか? たくさん読んだ 15人 それなりに読んだ 12人 あまり読んでいない 2人 全く読んでいない 3人
② 「色の感情効果」(赤=情熱, 青=冷静など)について、自分なりのイメージをもっていますか? もっている 9人 だいたいもっている 18人 なんとなくもっている 5人 もっていない 0人
③ 「構図」(画面のどこに描くものを配置するのか)について意識していますか? よく意識している 4人 意識している 14人 なんとなく意識している 10人 わからない 5人

意識調査の結果から、本学級のほとんどの生徒が絵本に慣れ親しんで育ってきており、絵本という身近な題材には抵抗なく取り組めると考える。美術の授業自体が好きと答えている生徒も27人おり、これまでの学習の様子でも、自由に発想したり、新しいものを生み出したりする活動に意欲的に取り組む姿が見られる。一方、質問③にあるように、「構図」を意識して絵を描いたり、モチーフを配置したりすることに苦手意識をもっている生徒が多いことが分かる。

これらのことを踏まえ、本題材では、「黒まる」の単純な変化やつながりから感じ取ったことを物語という形で言葉に表す活動を行う。また、イメージに制約が少ない単純な形を基本にすることで、生徒がもつ感性を豊かに働かせ、主題を生み出せるようにする。この基本的な形を基に、時間的な変化や量感、奥行き感、更には生命感を感じさせる物語を生み出すことは、生徒の創造性を大きく育む活動であると考える。

また、絵本は、私たちにとって最も身近で親しみやすいアート作品でもある。この身近な題材から、生活や社会に豊かに関わる美術の働きを実感させ、形や色などによるコミュニケーションを通して、イメージする力を養いたいと考える。美しさなどを感じ取る感性は、多感な中学生の時期にも多く培われ、それは、生まれながらの資質だけではなく、成長過程における様々な刺激や経験によってもたらされると考える。本題材での、友人同士やクラス全体での意見交換を通して、更に違った見方や価値観に触れ、生徒の見方を深化させるきっかけをつくってきたい。

4 学習計画(9時間扱い)

次	時	主な学習活動	評価規準〈方法〉
1	1	絵本について知る。	絵本の表現に関心をもち、絵本の制作に意欲的に取り組もうとしている。 関 〈観察, 学習シート〉
	2	黒まる絵本のベースをつくる。	制作の手順に従い、基となる絵本を工夫しながらつくっている。 創 〈観察, 作品〉
2	2	ストーリーを考える。 ストーリーの下書きをする。	色彩や構図による画面の変化からイメージを膨らませて、自分の物語の構想を練っている。 発 〈学習シート, 作品〉
	① 本時	中間鑑賞会を行う。 自分の作品を見直す。 作品に修正を加える。	アドバイスを基にして、主題をより強調するための効果的な形や色彩、物語の表現を工夫している。 創 〈観察, 作品〉
3	1	相互鑑賞会を行う。	自他の作品を鑑賞し、表現の工夫を感じ取りながら造形的なよさを味わっている。 鑑 〈発表, 学習シート〉

5 本時の学習

(1) ねらい

主題をより強調するための効果的な形や色彩等の表現を工夫することができる。(創造的な技能)

(2) 研究テーマ(教えて活用させる授業で基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着)に迫るために
中間鑑賞会で制作途中の友人の作品を鑑賞し、習った用語をキーワードとして使いながらお互いに
アドバイスをし合うことで、更に表現の構想を広げる。

(3) 資料・準備物

学習ファイル, 参考資料, 筆記用具, 鑑賞シート, のり, アクリルガッシュ, 黒ペン

(4) 展開(9時間扱いの6時間目)

(※研究テーマに迫るための働きかけ) 評 評価

	学習内容及び活動	形態	教師の指導と評価 ○教師の支援・留意点 ●個への対応
教える	1 本時の学習課題を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">アドバイスを基に、もっと魅力的な 絵本にしていこう。</div> ・前時で出された「魅力的な絵本」について確認する。	一斉	○課題の確認と用具の使用に関する注意点を説明する。 ○予め活動を行うグループと机の配置を確認しておく。
活用させる	2 グループで鑑賞会を行う。 (1) グループに分かれ、順番に作品を鑑賞する。 ・読み手のことを考えた表現ができているか。 ・対象に合わせた表現ができているか。 (2) 鑑賞シートにアドバイスを書いて相手に渡す。 (3) 鑑賞シートをのり付けする。 (4) アドバイスを基に作品を見直す。	グループ	●作品のながきが終わっていない生徒には、今後のストーリーの概要など、現段階でどうするつもりなのか言えるように助言する。 ○文字の大きさ、丁寧さ、デザイン、ストーリーの分かりやすさに着目できるように鑑賞のポイントを明確にする。 ○「子ども向け」、「中学生向け」、「大人向け」に合わせた言葉遣い、内容になっているかに着目できるように助言する。 ※キーワードを活用してお互いにアドバイスし合うことで新たな視点を得ながら、表現の幅を広げていく。 ○友人の作品を中傷しないように念を押しておく。
	3 絵本に物語や絵をかき込む。 (1) 鑑賞会でのアドバイスを基に改善を加え、修正していく。 (2) 物語は黒ペンで丁寧に書く。 (3) 「色まる」の修正を行う。	個別	評 アドバイスを基に、主題をより強調するために効果的な形や色彩、物語等の表現を工夫している。(観察, 作品) ○色の感情効果や黒い部分が画面に占める割合を意識し、もう一度言葉と画面のつながりを考えるように助言する。 ●なかなか制作が進まない生徒には、参考例を提示し、発想の手掛かりとなるようにする。 ●すぐに終わってしまいそうな生徒には、文字のデザインや大きさ等で読み手の受け取り方や伝わるイメージが大きく変わることを伝える。 ○余裕があれば、黒まるの形の修正などに時間を充てるようにする。
振り返る	4 本時のまとめをする。 (1) 次時の予告を聞く。 (2) 片付けを行う。	一斉	○学習ファイルに本時の振り返りを記入させることで、達成できたことや残された課題が確認できるようにする。